

作文部門

総評

今年は、低学年に力作が集中し、特に上位に残ったものは優秀がつけがたく大接戦でした。題材としては、夏休みに体験したことや、祖父母について書かれた作品が多く見られました。また、テーマがしほりきれていない作品も

最優秀受賞作品

せみのだつぴ

愛知県蒲郡市立蒲郡南部小学校
三年 荒島 理恵

八月十七日の五時半ごろ、わたしの行っている蒲南小へ、お父さんと妹と、友だちの亮子ちゃん、と、せみをとりに行った。六時ごろになったら、十ぴきい上になったので、とるのをやめて、少し鉄ぼうをやって帰ることにした。鉄ぼうのすぐ近くに、木が立ちならんでいて、そこでせみがミンミン鳴いていた。わたしは、さきに鉄ぼうの所まで行って、一ぴきぐらいみつつけようと思って、「先に行っているね。」

と言って、走っていった。

すると、近くにあったメタセコイヤという名前の木から、何かポト、と、おちてきた。わたしは、なあんだ、せみのからか、上にいるせみが、足か、はねでおとしたのかな、と思った。でも、ちょっと気になったので、もう一度、ふりかえって見た。

多かったようです。あれもこれもすべて書いた、という気持ちはわかりますが、単に事実をならべるのではなく、自分の感動を素直に表現することから、視点を広げていくとよいでしょう。来年も優れた作品に出会えることを期待します。

すると、足がうごいたので、近くによって見てみた。よう虫だった。にげようとするので手でつかまえた。

家を持って帰って、バケツの中に木を入れ、そこへ入れてやった。すぐ木に登って、下から二十センチぐらいのところで、つかまった。この時、六時半だった。そう言えば、五才のとき、大塚のおばあちゃんの家で、せみのよう虫をつかまえ、だつぴをするようすを見ようとした。でも、九時ごろまで起きていたけれどねてしまつて、見られなかった。こんどこそ、さい後まで見ようと思つた。

木につかまってから、十三分ぐらいたつて、もう、はねになるところが緑色になり、せながわれてきた。わたしが、

「あつ、もうせなかのところがわれてきた。」

と言つたら、妹の規恵は、

「ほんとだ、ほんとだ。」

と言つて、しんけんに見ていた。お父さんも、

「せながわれだすのが早いなあ。」

と、言っていた。

せながわれだして五分たった。後ろ足とおしりのへんがびくびく動いて、はねがちよつと出てきた。一センチ五ミリぐらいの長さで、はじめの一センチぐらいが緑色で、あとの五ミリが白色だった。

はねが出だしてから、十分ぐらいたつたら、頭が出始めた。しずかにじつと見ていたら、頭を右や左にゆすりながら、だんだん出てきた。三分ぐらいで、頭が全部出てきた。目はさいしよから黒く、口はもぞもぞ動いていた。

頭が全部出てきてから三分たった。はねが全部出てきた。とてもしわしわでやわらかそうだった。まだ小さく、すきとおっていた。はねが全部出てから、前足が動いて、いちばん後ろの足が出てきた。

はねが全部出てきてから、七分ぐらいしたら、おしりの先が出始めた。頭が出てくる時よりも、ゆつくりで、おそいことがわかる。よく見ると、中が少しすけて見える。

せながわれだしてから、全部出るまでに十分ぐらいかかった。出てきたおしりを見ると、すきとおって、ぶよぶよんだ。あまり弱々しいので、木からおちそうな気がしてかわいそうだった。全部出てきてから、五分たった。まだ全体にとても白っぽかった。はねは、白色のえのぐでかためてあるように見えた。まだ、どのしゅるいのせみで、オスカメスカもわからないので、妹の規恵とあてやっこをした。妹は、

「くまぜみのオス。」

と言い、わたしのかんでは、くまぜみのメスだと

※あてやっこ=あて合いつこ

思つたので、

「くまぜみのメス。」

と、言つた。

全部出てから、二十分たつた八時三十五分ごろ、はねの長さをはかった。そうしたら、せみの全体は、五センチぐらいで、はねは四センチぐらいだ。まだおしりのところと同じ長さだった。

八時四十五分、せながわれてから一時間ぐらいたつて、やつと、メスだとわかった。はねの色も茶色っぽくなつてきたので、夕方つかんだ大人のくまぜみとくらべた。だけど、まだまだ白っぽくうすかった。

九時半、はねの長さは、大人のせみと同じぐらいになつていた。色は、茶色っぽく少しすきとおつて、黒いすじが見えた。まだどのしゅるいのせみかわからない。妹はまちくたびれてねてしまつた。

十時まで起きていた。ねる前に見た時、体が白っぽい茶色をしており、ぜんぜん動かなかった。朝、六時に起きた。色がついていて、くまぜみだと思つたのが、あぶらぜみと、わかつた。

七時三十分になつても、まだ前の日のまま動かずにいた。せみは土の上に出て、一週間か二週間しかいていられない。かわいそうだと思い、にがしてあげようと、きのうつかまえた所へ行つてにがしてやつた。

選評

熱心にせみの様子を観察していることが伝わってくる作品です。刻々と変化していくせみの様子が、わかりやすく正確に書けています。

習字部門

最優秀賞

（奈良・広陵北小）中堀雅子

優秀賞

（福岡・中間東小）兵藤尊子

（岩手・城北小）関 崇志

（青森・中里中）荒岡礼子

（名月白雲）

（川下）福岡・福岡小（一年）糸山輝明「つなひき」奈良・広陵北小（二年）東公子「やま」福岡・中広小（二年）綾戸常貴「夕立」広島・昭和中央小（三年）末岡歩美「天空」新潟・東石山中（二年）加賀田麗子

佳作

（たき）広島・昭和北小（一年）谷岡美希「まんげつ」奈良・広陵北小（二年）中川和美「みず」広島・昭和北小（二年）神田葉月「やま」福岡・福岡小（二年）糸山輝美「お友だち」福岡・武生西小（三年）金子佳世「生きる力」奈良・広陵北小（二年）大西由起「水車」広島・昭和中央小（三年）藤川大介「清風」奈良・広陵北小（二年）阪本さつき「松風水月」福岡・大和中（二年）横山千絵「高山雪溪」山形大学附属中（三年）寺島奈美

絵日記部門

最優秀賞

（愛知・守山小）荒川由比佳

優秀賞

（埼玉・南小）寺嶋裕子

（兵庫・愛徳学園小）田村光穂

（宮城・中新田小）伊藤奈美

（えに）

（うれしいな）やすみ「青森・吹上小（一年）川端裕一」絵日記「新潟大学附属新潟小（一年）あいざわあきひこ」絵日記「宮城・古川第二小（二年）鈴木広海「えに」千葉・古ヶ崎小（二年）岡田亜

佳作

（絵日記）宮城・中新田小（一年）大場崇光「えに」宮城・古川第二小（一年）齋藤孝嘉「えに」京都・錦林小（一年）野村智広「なつやすみのえに」兵庫・愛徳学園小（一年）早川美保「えに」宮城・中新田小（二年）佐々木麻里「絵日記」宮城・古川第二小（二年）佐藤史織「夏休みの思い出」東京・高井戸小（二年）佐々木加奈「2年目の夏・中国のたび」岐阜・長良西小（二年）柳川文香「絵日記」福岡・

中間東小（二年）山崎哲之「楽しい夏休み」福岡・大城小（二年）武本京子

社会科部門

最優秀賞

（山口・大井小）河野裕子

（岐阜・春日小）野原里香

（京都・春日小）友金亜

（春日茶の将来）

（城下町ウォッチング）

（新都市幕張メッセについて）千葉・花園中（一年）平野綾子・友金亜美子・石黒雅美

優良賞

（アメリカと）つばねのがつこうくら（岐阜・長良西小（一年）金保洋一郎「岩邑城のなぞ」岐阜・北小（四年）下野裕司「わたしの家のごみしらべ」神奈川・小和田小（四年）佐藤啓子・佐藤敬久「フチボ

ンチセの主」杉村京子さんを訪ねて（北海道・富沢小（六年）高橋明里「心をつなぐ道」花園第一グリーンベルトについて「千葉・花園中（一年）碓多香子・水越晶子・中村綾子「徳川家康と駿府城下町」静岡・安東中（二年）秋元英範・熊切恵

佳作

（福井市の歴史散歩）福井大学附属小（四年）竹越公美「しょう油探検隊」東京・聖徳学園小（四年）桜庭泰「相模線」神奈川・四蔵小（五年）加藤昭雄「環七一周旅行」東京・東六郷小（五年）福田一郎「あ・うんの研究」（神奈川・室田小（五年）吉村千絵「石垣島と竹富島」東京・高井戸小（五年）坂本愛「縄文時代を歩く」愛知教育大学附属岡崎小（六年）清水真也「東京湾の埋立と発展」千葉・花園中（一年）高橋謙太郎・鈴木史雄・松村正義「小笠原諸島の現状と将来の展望について」北海道大学附属札幌中（三年）笈田健州

算数科・数学科部門

最優秀賞

（素数方陣）東京・宮前中（三年）菅谷真志帆・小宮直・笠松雅純・茂

「立方体のてん開図のひみつがし」

（食品の数と値段）

（熱開甲子園）

（展開図調べ）愛知教育大学附属岡崎小（四年）山田千品「セーターの面積と糸の量」愛知教育大学附属岡崎小（四年）吉田智恵「立方体と直

方体の展開図」愛知教育大学附属岡崎小（四年）佐々木淑江「確率」東京・宮前中（三年）四方康之・山本圭太・斎藤哲「フェルマーの最終定理」東京・宮前中（三年）原英之・門田一郎・福原義尚